

# 3

## 外部評価



## 外部評価委員会

### 外部評価委員名簿

外部評価委員	
竹内 守善	地域振興アドバイザー 外部評価委員長
神野 明	四国学院大学 学長特別補佐
野田松太郎	株式会社愛媛キャンパス情報サービス代表取締役社長 愛媛大学 名誉教授
三木 義久	四国経済連合会専務理事
野嶋佐由美	高知県公立大学法人理事・高知県立大学副学長

平成 26 年度外部評価委員会 議事次第

日時 平成 27 年 3 月 20 日（金）11 時～

（MCU 利用のテレビ会議システムによる）遠隔会議

1. 開会

- (1) 藤井会長挨拶
- (2) 竹内委員長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 外部評価委員会規則説明

2. 議題

- (1) 平成 26 年度の事業実施報告 (議題資料 1、別添資料 1, 2, 3)
- (2) 平成 27 年度の事業計画について (議題資料 2、別添資料 4)
- (3) 質疑応答及び意見交換
- (4) その他

3. 閉会

深見副会長挨拶

4. 閉会 深見副会長挨拶

資 料

外部評価委員名簿

外部評価委員会規則

議題資料 1 H26 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施報告

議題資料 2 H27 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施計画

別添資料 1 H22～H26 年度実施科目の大学別の履修人数

別添資料 2 H21 年度からのコンテンツ作成数と利用状況

別添資料 3 H26 年度 eK4 事業実施計画の達成状況

別添資料 4 H27 年度 eK4 事業実施計画の詳細検討

関係資料 eK4 News Letter 17 号

平成 26 年度外部評価委員会 議事録

日 時：平成 27 年 3 月 20 日（金）11：00～12：00

場 所：テレビ会議システムを利用した遠隔会議

出席者：【司会】林敏浩（香川大学）

外部評価委員：出席者	
竹内守善	地域振興アドバイザー 外部評価委員長
野田松太郎	株式会社愛媛キャンパス情報サービス代表取締役社長 愛媛大学 名誉教授
野嶋佐由美	高知県公立大学法人理事・高知県立大学副学長
陪席者	
藤井宏史	香川大学運営委員 eK4 会長
深見公雄	高知大学運営委員 eK4 副会長

他 陪席 35 名

- 1 開会 (1) 会長挨拶  
(2) 外部評価委員長挨拶  
(3) 委員紹介  
(4) 外部評価委員会規則説明
- 2 議題 (1) 平成 26 年度の事業実施報告（議題資料 1、別添資料 1、2、3）  
(2) 平成 27 年度の事業計画について（議題資料 2、別添資料 4）  
(3) 質疑応答及び意見交換  
(4) その他

3 閉会 副会長挨拶

資料

外部表会員名簿

外部評価委員会規則

議題資料 1. H26 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施報告

議題資料 2. H27 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施計画

別添資料 1. H22～H26 年度実施科目の大学別の履修人数

別添資料 2. H21 年度からのコンテンツ作成数と利用状況

別添資料 3. H26 年度 eK4 事業達成状況

別添資料 4. H27 年度 eK4 事業実施計画の詳細検討

関係資料 ニュースレター17号

1 開会

(1) 会長挨拶

年度末のお忙しいなか、平成 26 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国外部評価委員会にご出席いただき、ありがとうございます。本日は、昨年同様、本年度の事業報告、並びに来年度の事業実施計画をお諮りしたく存じます。補助金が切れて 4 年目となりました。厳しい予算状況にも関わらず、着実に実績を上げてくれましたことも、外部評価委員の皆様からのご意見が大きく寄与していると聞いています。本日もそれぞれのお立場から忌憚りの無いご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(2) 外部評価委員長挨拶

おはようございます。年度末の大変お忙しいなか、皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。委員の皆様のご意見を伺いながら、会議を進めていきたいと思っております。私は離島や中山間等、いろいろな所へ行き、そこで話を聞いて参りましたが、どこも地域創生を踏まえた取り組みを行っています。そういったデータを集めながら、e-Learning の中で「四国の知」を集めることになればと思っています。

本日は忌憚のない意見を交換できればと考えております。ご協力よろしく  
お願いいたします。

### (3) 外部評価委員紹介

外部評価委員の紹介があった。

### (4) 外部評価委員会規則

林事務局長から外部評価委員会規則の説明があった。

## 2 議題

### 議題(1) 平成26年度の事業実施報告(議題資料1、別添資料1、2、3)

林事務局長から平成26年度eK4事業実施について報告があった。

### 議題(2) 平成27年度の事業計画について(議題資料2、別紙資料4)

林事務局長から平成27年度のeK4事業計画について説明があった。

### 議題(3) 質疑応答及び意見交換

eK4の事業内容について、外部評価委員から以下の意見があった。

#### 【野田委員】

このeK4の外部評価委員会は今回初めて出席するが、一番気になっていることは、この委員会がテレビ会議で開催されていることである。これではまともな意見交換ができない。テレビ会議での開催の理由として、予算が無いということだが、eK4を継続される場合は、頑張って予算を確保していただく必要があると思う。今のままでは、まともに会議が進まないと思う。

また、少なくとも私はeK4外部評価委員に任命され、eK4という存在を知った。愛媛大学の学生の中ではあまり存在を知られていない感じがする。教員の中でもeK4にポジティブな意見を持っておられる方は少ないと思う。よって、eK4の在り方そのものを議論していただく必要があるのではと思う。

また実際、e-Learningコンテンツを作成しておられるようだが、コンテンツの作り方を、今のテレビ会議システムと同じような作り方をされては、問題があると思う。私は、1990年頃アメリカにいて、講演等もさせてもらった。アメリカでは、プロフェッサーが資金を集め、たくさんのアシスタントを雇って、対話型の教育がなされていた。このような手法は効果的で、アメリカでは、こういったやり方をe-Learningに反映していた。それを日本では、まるで映画館で映画を見るようなe-Learningを行っている。私はこれでは学生にとっては意味が無いと考えている。学生の意見をどう授業に取り入れるかが基本である。

eK4で開講されている四国学というコンテンツは、中身を見ていないので、十分に存じないが、これを全国に発信するのであれば、マスコミを使うしかない。また、よく話題に出ている専門職大学院というものがあるが、これは高専と区別がつかない。こういった大学になることを望まれるのであれば、非常に一般的なe-Learningコンテンツを作成すれば良い。しかし、大学は研究機関であり、研究者の研究成果を学生に見せることが本来の姿だと思う。そういったことを踏まえ、一般的なコンテンツではなく、各大学が誇る研究を表に出したコンテンツを作っていたらいい。そして、大学教員には、研究が成功するかどうかは別として、本質的には研究を行う姿勢が重要であり、そういった姿勢で、e-Learningコンテンツも作っていただきたい。

また、四国の大学が協力してコンテンツを作成するのであれば、もっと身近な話題を取り上げられればより良いと思う。最近では、イスラム国の問題があるが、そういった話題を出すにも、愛媛大学にはイスラムに専門とする教員がいない。しかし、香川大学や徳島大学にはイスラム教を専門として研究されている方がいる。そういった方々との対話形式のコンテンツを作るのであれば、こういったテレビ会議システムを使った方法でも良いと思う。また、林事務局長にはお話ししたが、先日ノーベル物理学賞受賞者の中村修二氏が徳島県で講演をされたが、そういった方の講演をコンテンツ化するのも意味があると思う。こういった研究をどんどん発信して欲しい。

#### 【野嶋委員】

このような会議の開催方法については、本学でも共同災害看護学専攻の大学院教育課程において、5大学間でテレビ会議システムを利用した授業を行っている。その他の会議についても、月1回ほど色々な委員会の会議をテレビ会議システムで行っている。運用方法次第であると思う。我々は双方向性、同時性そして参加型といった3つのキーワードを取り入れながらテレビ会議システムで運用している。ただ本学でのテレビ会議システムを用いた授業は、学部ではなく大学院が対象で、5大学の学生が集まっても3、4人程度と少数である。テレビ会議システムを使った方法は、コンテンツは伝わるが、文脈がなかなか伝わりづらいところもあり、学部教育ではなかなか難しいかもしれない。

議題資料を見ても、eK4の科目数は増えている。履修者数も25年度よりも26年度の方が多い。それなりに努力されて普及していると思うので、そこは評価できる。しかし、他大学の学生をどう巻き込んだ授業ができるかが課題だと思う。我々のコンテンツでもそうであるし、特に学部教育の中ではかなり難しいと思うが、フラストレーションや何か足りない部分をどう補っていくかを考えるべきだと思う。そのためには各大学でTAを付ける等の工夫をすれば、他大学の学生も参画をしやすくなると思う。学生に参加型にするといったことが大事である。我々の授業では参加型を意識しながら、たくさんの課題を出している。そうすると、その授業の人气が無くなるといったジレンマがあるが、しかし、授業を参加型にするだけで学生の反応は違ってくる。あとは、授業をトピックスで区切り、トピックス毎に参加できるようにすれば、参加学生も増えると思う。ただ我々大学教員は、これを学んだら、次はこれといった段階式で考えるので、こういった授業の組みづらさはあるだろうと思う。

オープンコンテンツ化については、35コンテンツ中、23コンテンツがオープン化に前向きなのは高く評価ができる。1つのコンテンツの中に15コマが入っていると思うが、トピックス毎に区切り、60分ものコンテンツとして見なければ、オープンコンテンツ化もさらに進み、たくさんの方が利益を得られるのではないかと思った。またこの試みは、学部生向けだと思うが、大学院でも行えば、もっといろんなことができるのではないかと思った。

さらに、高知工科大学が中心になって行っているMoodleの拡張モジュール開発は、私にとっても期待していることである。どのような形で開発されているのか、是非情報をオープンにしていいただければと思う。いろんな大学でLMSを開発されているので、参考にさせていただければ、我々も有り難い。

#### 【竹内委員】

私は元々香川県庁に勤めていたが、そこでは役所と地域の大学との繋がりをもっと強めようと言う話が出ていた。また、公共団体が持っている素材等、例えば先人の写真や資料を、これからもっとデジタル化していこうという動きもある。私はこういった資料を大学で使えるような仕組みを作れないかと考えている。大学で全ての素材を用意するのではなく、役所の資料を借りたり、共有していれば、コンテンツ作りに役に立つと思う。貴重な資料もデジタル化して複数の場所で残しておけば、災害で資料が無くなってしまっても、他の場所でデータが残っている。連携した場所で資料が残せるということは、非常に大事なことだと思うので、そのあたりのことも含め検討していただければ有り難いと思う。

一方講座については、「かがわ長寿大学」というものがある。この長寿大学では、様々な講師に講座を開設していただけており、受講生も大勢来ている。社会福祉機構のような組織に、こういった講座をデジタル映像として残していただければ、e-Learning授業で使えるものがあるかもしれない。また、こういった映像を加工・編集することによって、より良い使い方ができるかもしれない。また、つい最近の話だが、香川大学の地域マネジメント研究科の授業で、私は四国ツーリズム創造機構と一緒に観光講座を15回開いた。そこで各県知事にもお越しいただいたし、私も離島関係の話をさせていただいた。予算の無いなかでコンテンツパッケージを作るのは難しいと思うが、こういった講座もそのまま取り込んでおけば後々使えると思う。

また予算については、私や三木委員が審査官をやっている一般社団法人四国クリエイティブ協会(元社団法人建設弘済会)が地域振興事業に対して助成を行っている。この協会で作られるものはオープン化されているので、コンテンツの素材としての価値は十分あると思う。また可能かどうか分からないが、この協会から資金提供をお願いしてはいいかがか。その他に香川県で言えば、松平公益会がそういった事業に事業補助をしているので、そういったところも検討されてはいいかがか。

【野田委員】

予算確保については、組織を継続して行く上では必須だと思う。eK4の元々の体質とどこまで合致するかが問題だが、そこがクリアでき、香川県だけではなく他の県のいろんな組織からの補助金が得られれば、きちんとした対面での委員会を香川県で開催できる。是非ご検討いただきたい。

また Moodle のモジュール開発については、高工科大学だけでなく各大学で取り組んでいることだと思う。愛媛大学も 10 年ほど前に Moodle を導入しているので、それからどれだけ進展しているか存じないが、その辺りの開発は進めている。

それよりも Moodle の中に入れるコンテンツが大事だと思う。我々は、愛媛大学の医学部看護学科のシステム作りをしているが、医学部や看護学科の学生は非常に真面目に勉強されている。これはおそらく資格試験があるためだと思う。しかし、資格試験がない学部学科はそこまで真面目ではない。こういった真面目ではない学生をどこまで惹き付けられるコンテンツを作るかが重要である。そのコンテンツをどのように作成していくか、そこに至る方向性をきちんと検討していただきたい。今のような四国学というコンテンツの作り方では、全体の流れがはっきり見えてこない。

【竹内委員】

資金の話については、色々訪ねてみる必要があると思う。しかし皆さんお忙しいと思うので、私の方で一度三木委員と相談させていただいて、何か見込みが無いか尋ねてみたい。やはり face to face でないとできないことはたくさんあると思う。こういった会議も対面で行い、腹を割った話をするのも大事だと思う。これは予算抜きでは非常に難しいと思う。

また大学で観光に関する授業を行うことがあれば、四国ツーリズム創造機構みたいな組織に協力してもらうこともあり得る話だと思う。予算内でできることを考えていく必要があると思う。

（林事務局長）

事務局としても予算を確保して、外部評価委員会等の会議は対面で開催するのが理想的であると考えていた。今までは継続した資金調達の仕組みを考えていたが、単発的に取ってくるのも一つの手かなと思う。まずは資金を取ってくることを考えなければならない。

【竹内委員】

もう一点、私は地域との連携の中で放送大学と一緒に仕事をすることがある。そういった取り組みで提供された資料は公開してもいいというものが多い。放送大学主催で手袋産業のシンポジウムが白鳥町で開催されたが、そこでの資料は、デジタル化してお使いくださいと県や市町村に配られたりしている。放送大学の授業は、大学の授業とは違う線引きはあると思うが、使えるものは使っていけば良いと思う。

（林事務局長）

そういったデータを大学内で使用するという仕組みがまだできていない。それを eK4 で先行して作ればと思う。

【竹内委員】

こういったデジタルデータを大学図書館に入れるという仕組みもないか。

（林事務局長）

公式的にはそういったことはされていない。この辺りの仕組み作りが結局遅れている。

【竹内委員】

県庁の中でもそういった仕組みが無い。県の広報写真は、現在は各課でデジタル化して残す方法を考えている。文書館や県立ミュージアム等にそういったデジタルデータの総合的な窓口を設けるべきだと言う意見も出ているが、まだどうするか決まっていない。

（林事務局長）

eK4 としては、予算はしっかり確保していくこと、また比較的安価または無料で使用できるデータ等は利用していくことに努めたい。役所のデジタルデータの活用については、前年度もご指摘いただいたことだが、もう少し積極的に検討を進めていきたいと思う。

【野田委員】

先ほどデジタルコンテンツの話題が出たが、大学の特質は活かさなければいけないと思う。県庁が保有しているデジタルコンテンツの在り方と大学が保有しているデジタルコンテンツの在り方はまた違う。そういった問題と現在大学が置かれている問題がある。

昨今ではどんどん少子化が進み、大学の志願倍率もどんどん減ってきている。私は以前に大学基準協会の評価委員を 3 年間していた。その当時は、志願倍率が 2.7 倍を下回ると警告を出されると言われていた。しかし、現在は、国公立大学でも倍率が 2.7 倍を下回る大学がたくさんある。このような倍率では、私が文部科学省の職員であれば、すぐに別の大学との統合を提案するだろう。そういった危機感を持って大学は取り組んでいく必要がある。そのためには、どう全国的に目立つコンテンツを作るかを考えていかなければならない。そうすれば、四国の大学は全国に名を轟かすことができるだろう。そうでなければ、大学はどんどん高専化していき、大学院はなくなり、職に就く人を養成するだけの大学になっていくだろう。もう少し大学は危機感を持つべきであるが、その辺りのことは、eK4 はどのようにとらえられるのか。

また資金は県庁等から援助いただくにしても、本質的なコンテンツの中身は大学のものなので、その仕分けをきちんとしていただきたい。

（林事務局長）

事務局レベルの回答になるが、eK4 は元々四国のためになる人材育成という題目のもとに、文部科学省から補助金を得ていた。申請書の中でも、そういった人材を育成するためには、各大学の持っている教育・研究等をリソースとしてコンテンツを作成することを記載した。

確かに野田委員の仰るとおり、大学としての立ち位置をきちんと考えて動かなければならないと思う。これは個人的な意見であるが、その辺りに関しては、実際の運用でコンテンツを作らなければなくなったときに、視点が曖昧になったまま進んでしまったと思う。

まさに eK4 が設立されて 8 年目を迎えることとなったが、事業を 10 年継続させることを文部科学省から言われている。これも私個人の意見だが、せっかく意味のある事を四国で始められたので、他の事業と連携しながらでも、eK4 を継続していきたい。

また eK4 科目は、大学が発信しているので、大学の研究や教育が軸足になると思う。しかし、大学がいろんなコンテンツを作るようになったときに、限界があると思う。竹内委員の意見にもあったように、例えば県庁が保有しているコンテンツを上手く活用しながら、しかし大学の研究の中で一本筋の通ったコンテンツ作りをしていくことが理想的だと思う。そういったことを進めなければ、野田委員のご意見にもあった、eK4 が何をしている事業なのかよく分からないということになってしまう。

【竹内委員】

私は eK4 が設立したときから外部評価委員をさせてもらっているが、当時早稲田大学の外部評価委員から、早稲田大学では卒業生に授業のパッケージを DVD にして販売しているという話をお聞きした。そういったことが、大学にとって良いのか悪いのか、それぞれの大学の考え方があると思うが、ビジネス的なことも加味しながら検討して行く必要があると思った。

（林事務局長）

この場で個人的な意見を述べるのが適切かどうか分からないが、我々が eK4 を立ち上げたときは、情報が少ないことを理由に誤摩化していた部分もあったと思う。何年も続けるうちに、様々なところで様々な取り組みがあるので、そういった情報をもっと積極的に取り込んでいかなければならない。そのためには、具体的な仕組みを考えて、前に進むための次の一手を出していかなければならないと考えている。

#### 【野田委員】

一番重要なことは、大学がどのように生き残っていくかである。そのためには大学がベースとなったコンテンツをどのように作っていくか考えなければならない。愛媛県で言えば、最近では愛媛大学農学部の社会連携推進機構植物工場研究センターが西条市の農業6次産業化と絡んでいろいろなことに取り組んでいる。またそれに絡めて、7、8のプロジェクトが愛媛大学で立ち上がっている。我々もこの農学部と西条市との連携に関連したコンテンツを作っているが、こういったことを上手くピックアップすれば、それなりに大学がバックとなったコンテンツになる。香川大学の稀少糖がまさにそうであると思う。

また先ほど放送大学の話が出たが、放送大学の場合は、良くできたコンテンツはたくさんあるが、内容はかなり異質でジェネラルなコンテンツである。eK4で作っているコンテンツは、放送大学のコンテンツとは違い、大学ベースであることを強く意識しながら、全国的にPRできるものにしていければ良いのではないかと思う。その辺りをきちんとご議論いただければと思う。

#### 【竹内委員長】

資金を集めるとしても方向性をきちんと定めていた方が良いと思う。野田委員のご意見は、非常に大事だと思う。

私も四国4県のネットワークの仕事は観光の方でよくやっていたが、そこで上手くやっていくコツは「難しいことを易しく易しいことを深く深いことを面白く」ということである。これは井上ひさし氏（日本の小説家、劇作家、放送作家）が自分の作品を作る際に一つの目標にしていたことである。

#### （林事務局長）

外部評価委員会でもいただいたご意見は、eK4企画委員会または運営委員会で議論を進めていきたいと思う。

### 3 閉会

#### 副会長挨拶

本日は、外部評価委員の皆様から非常に貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

普段我々が考えていない、思いもしないご意見をいくつもいただけたと思います。その中で、2つほど思った事をお話しして、閉会の挨拶に代えさせていただきます。

1つはLMSの使い方について、それからもう1つは、言葉は悪いですが、“授業のつまみ食い”についてです。

LMSの使い方については、テレビ会議システムを使い同調的な授業を行うにしても、ビデオ撮りしたコンテンツを使うにしても、結局その一方方向しか授業がなされなかったらあまり意味が無いということです。双方向の授業が大事だという指摘があったかと思えます。そのときに重要なのは、教員がいかにLMSを使いこなして、双方向からやり取りができるように工夫するかということです。それが成功に導くキーとなってくると思えます。

もう一つの“授業のつまみ食い”については、我々大学教員はそれぞれの大学のディプロマポリシーに従って、カリキュラムを組み、各授業科目を履修ロードマップの中のどこに位置づけるかという作業を行っています。しかしeK4のような他大学開講科目をロードマップのどこに位置づけるかを考えたときに、それがなかなか難しく、上手く組み入れることができずにいました。

先ほど野嶋委員の仰っていた、1授業15コマのうち、学生が様々な授業をつまみ食いのように視聴することができれば、さらに受講生数を増やしていくことができると思えます。香川大学で開講されている四国学のような1コマ1コマ違う話題を扱っている授業であればそういったことも可能だと思えます。つまり、ロードマップでポリシーに従う授業のみならず、そういったことを打ち壊してやっていく方法も検討しなければならないと思えます。是非eK4企画委員会でご審議いただきたいと思います。よろしく願います。

今回外部評価委員の皆様のご意見は非常に貴重なものでした。示唆に富んだ部分が多々あったと思えます。外部評価委員会の皆様、ありがとうございました。

<追記> 3月17日にメールで三木委員より以下の意見があった。

事前資料を拝見すると、各大学でeK4科目を提供しているが、他大学の受講生が極めて少ない事が残念だ。その原因を踏まえ、受講生を増やす対策を講じる必要があると思う。